

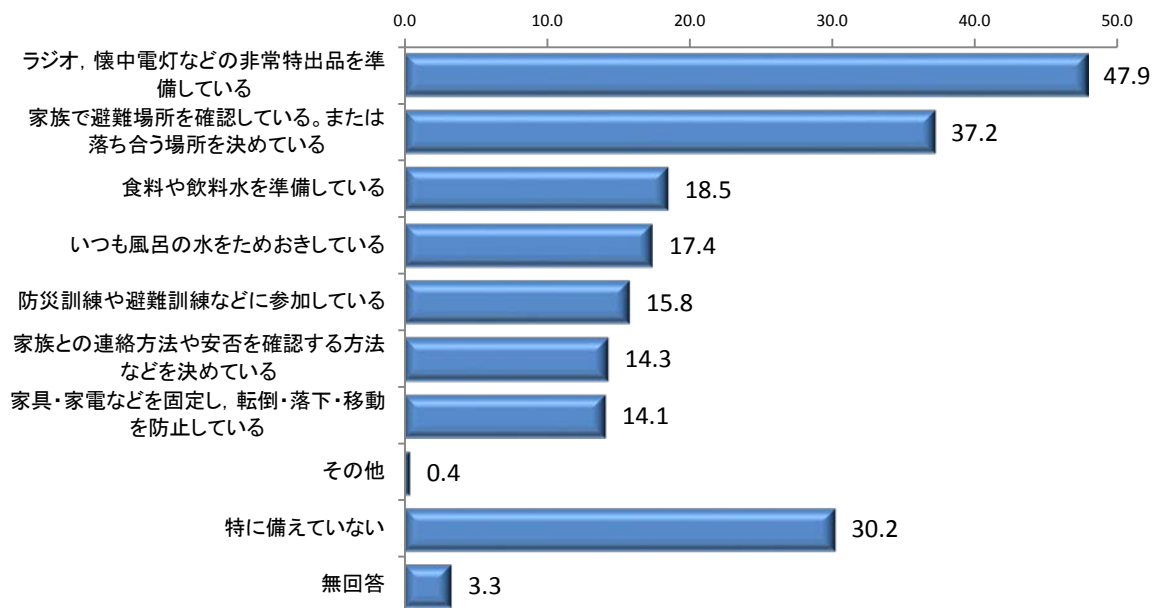
11. 防災

(1) 家庭で行っている災害対策

問 31 災害に備えてあなたの家庭で行っていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(M. A.)

非常持出品を準備している家庭が半数程度

災害に対して「ラジオ、懐中電灯などの非常持出品を準備している」と回答した人が 47.9%と最も高くなっている。次いで「家族で避難場所を確認している。または落ち合う場所を決めている」が 37.2%、「食料や飲料水を準備している」が 18.5%となっている。



(単位: %)

<属性による比較>

【生活圏別】

「防災訓練や避難訓練などに参加」は備後生活圏が 19.1%、備北生活圏が 19.8%に対し、広島生活圏は 14.3%と5ポイント程度低い。「非常持出品の準備」「食料品や飲料水の準備」は広島生活圏が他の2生活圏と比べて高い。「特に備えていない」と回答した割合は備後生活圏が 34.5%と、他の2生活圏と比べて5ポイント以上高い。

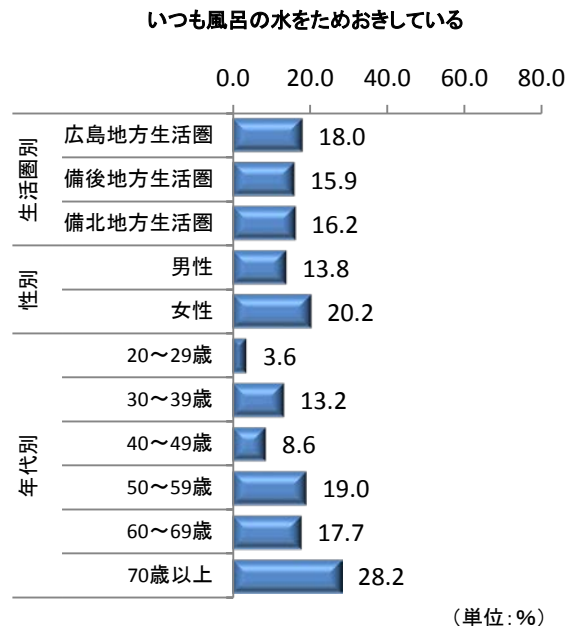
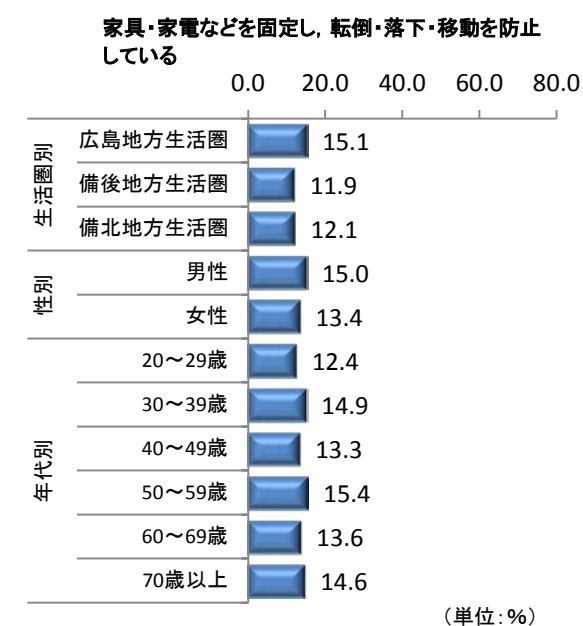
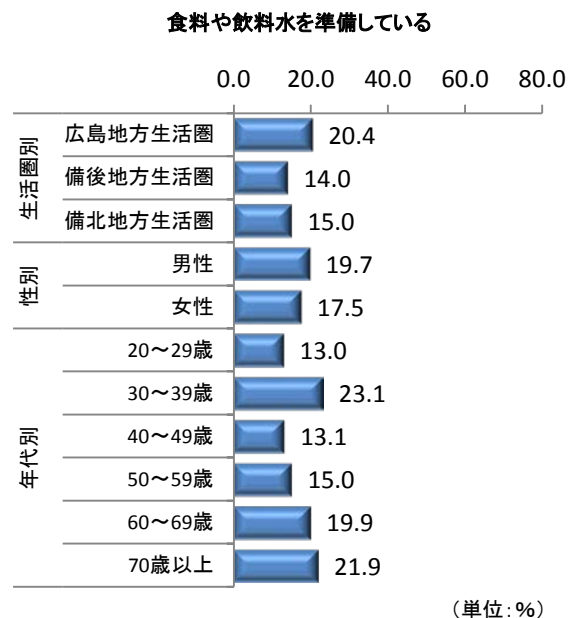
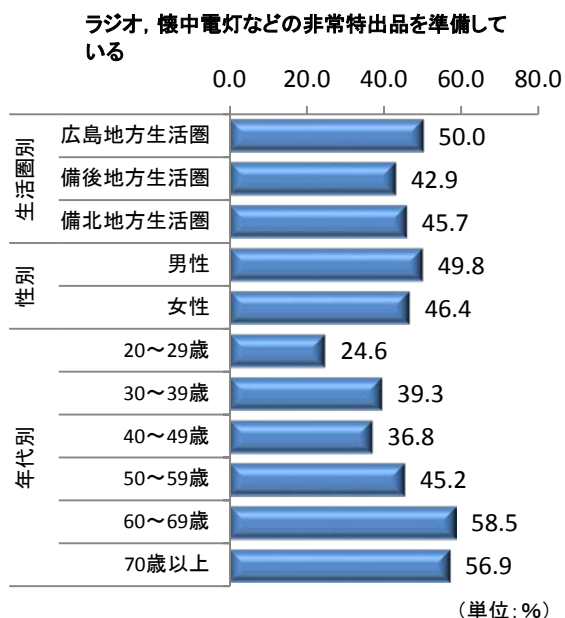
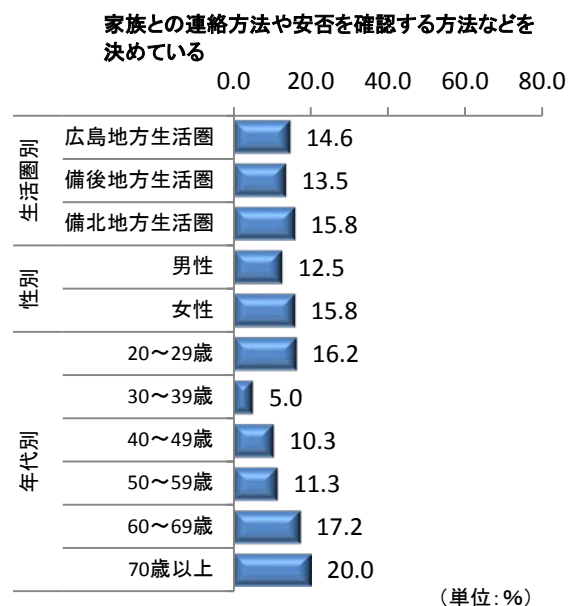
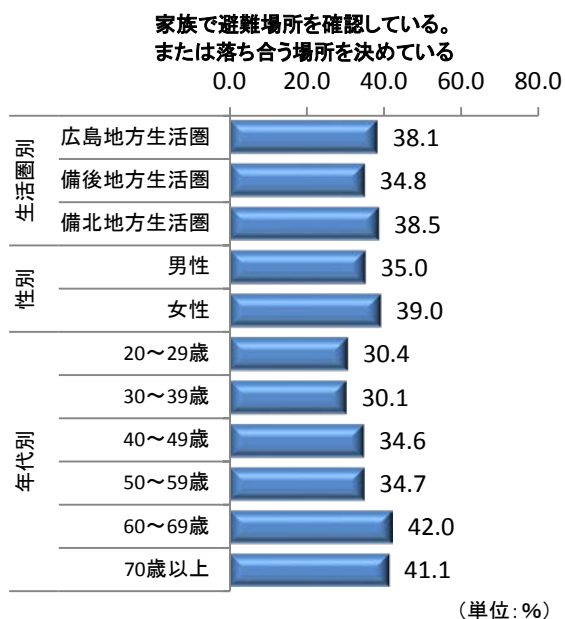
【性別】

「いつも風呂の水をためおきしている」と回答した割合は、女性が 20.2%で、男性の 13.8%と比べて 6.4 ポイント高い。一方で「防災訓練や避難訓練などに参加している」と回答した割合は男性が 19.0%で、女性の 13.3%と比べて 5.7 ポイント高くなっている。

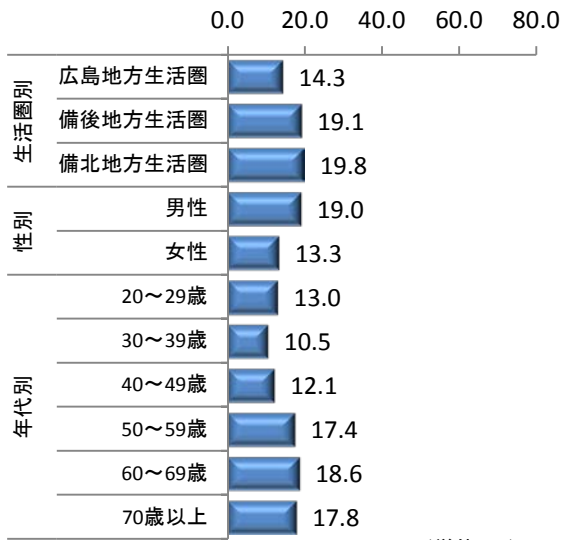
【年代別】

「ラジオ、懐中電灯などの非常持出品を準備している」と回答した割合は、60歳代以上で半数を超え、他の年代と比べて10ポイント以上高い。「いつも風呂の水をためおきしている」は70歳以上が 28.2%と、他の年代と比べて高い。「特に備えていない」と回答した割合は若い年代ほど高く、20歳代では 47.3%と半数近くにのぼる。

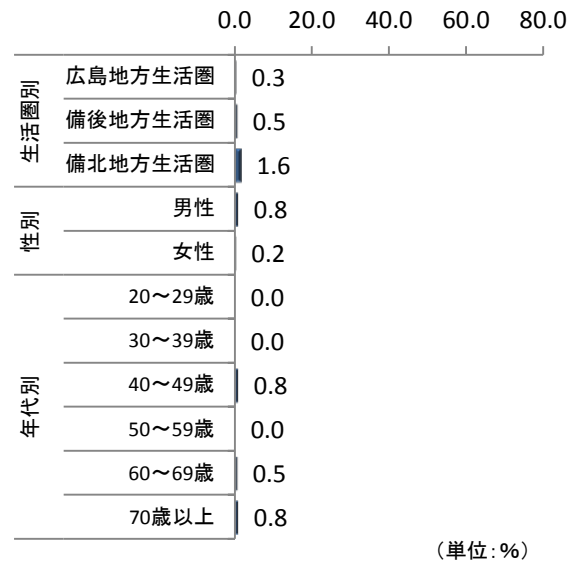
家庭で行っている災害対策(生活圏, 性, 年代別)



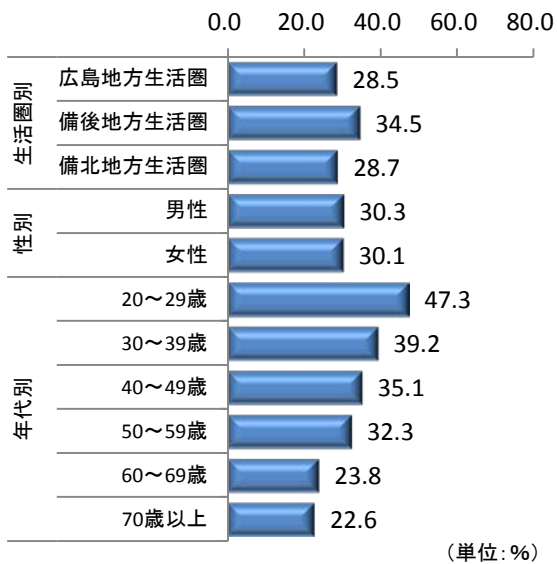
防災訓練や避難訓練などに参加している



その他



特に備えていない

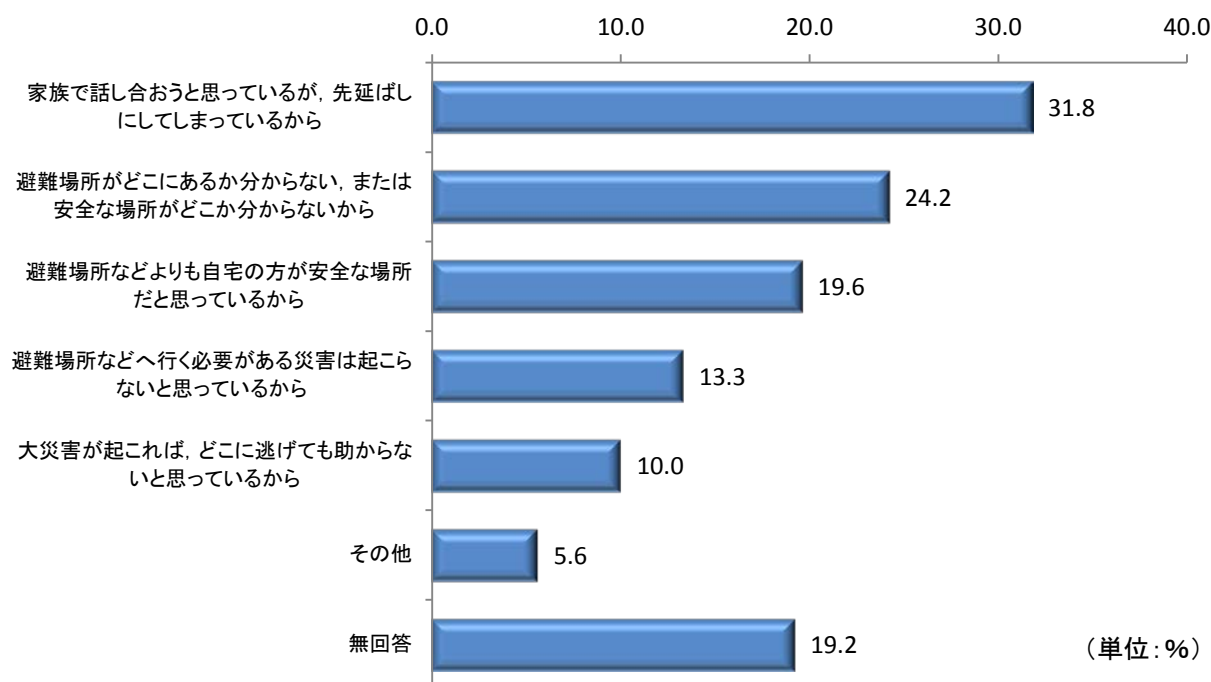


(2) 避難場所などを確認していない理由

問 32 問 31 で「家族で避難場所を確認している。または落ち合う場所を決めている」を選ばなかった方にお伺いします。避難場所などを確認していない理由について、あてはまるものをすべて選んでください。(M. A.)

先延ばしにしている家庭が最も多い

避難場所などを確認していない理由は、「家族で話し合おうと思っているが、先延ばしにしている」と回答した割合が 31.8%と最も高く、次いで「避難場所がどこにあるか分からない、または安全な場所がどこか分からない」が 24.2%、「避難場所などよりも自宅の方が安全な場所だと思っている」が 19.6%となっている。



<属性による比較>

【生活圏別】

「避難場所、または安全な場所がどこか分からない」は広島、備後生活圏が備北生活圏に比べて高い。「家族で話し合おうと思っているが、先延ばしにしている」と回答した割合は、広島生活圏が 33.1%と他の2生活圏より高い。「避難場所などよりも自宅の方が安全な場所だと思っている」は備北生活圏が 26.3%と他の2生活圏と比べて5ポイント以上高い。

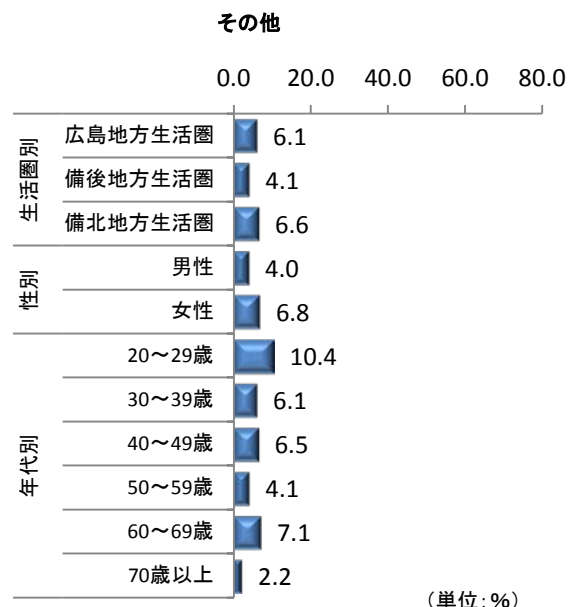
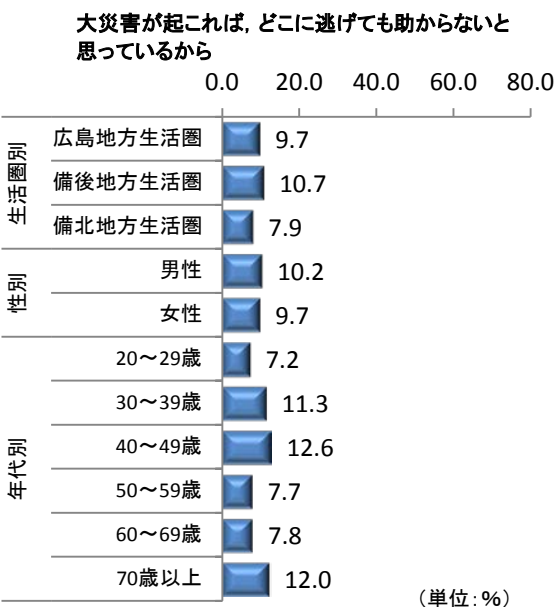
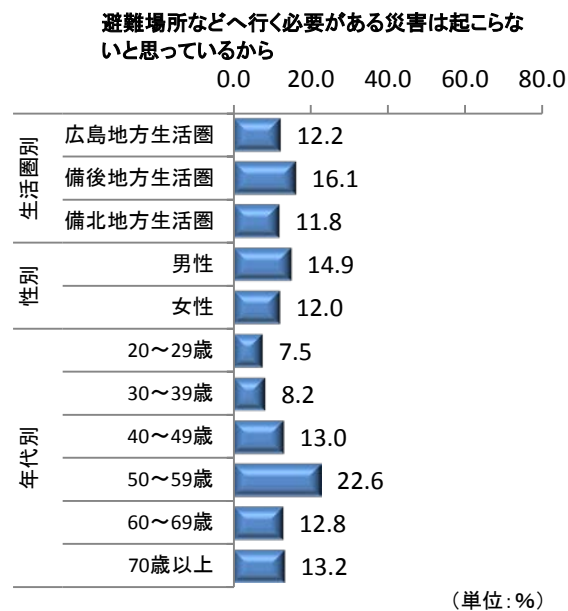
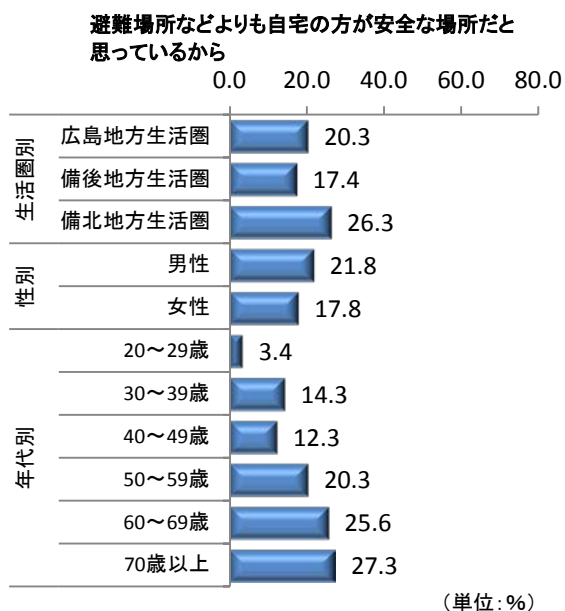
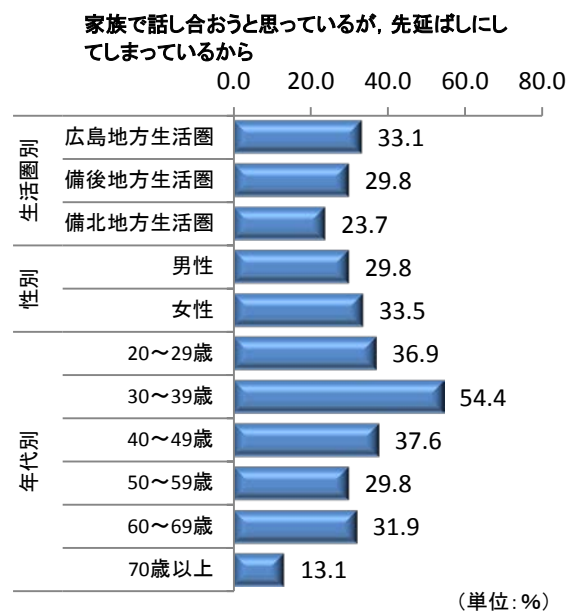
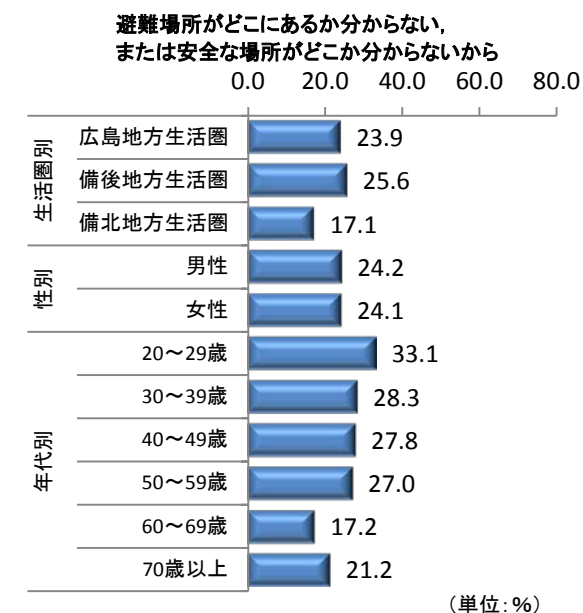
【性別】

「家族で話し合おうと思っているが、先延ばしにしている」と回答した割合は女性の方がやや高い。

【年代別】

「家族で話し合おうと思っているが、先延ばしにしている」と回答した割合は、30歳代で 54.4%と半数を超え、他の年代と比べて15ポイント以上高い。「避難場所などよりも自宅の方が安全な場所だと思っている」と回答した割合は、概ね年代が上がるごとに高くなっている。

避難場所などを確認していない理由(生活圏, 性, 年代別)



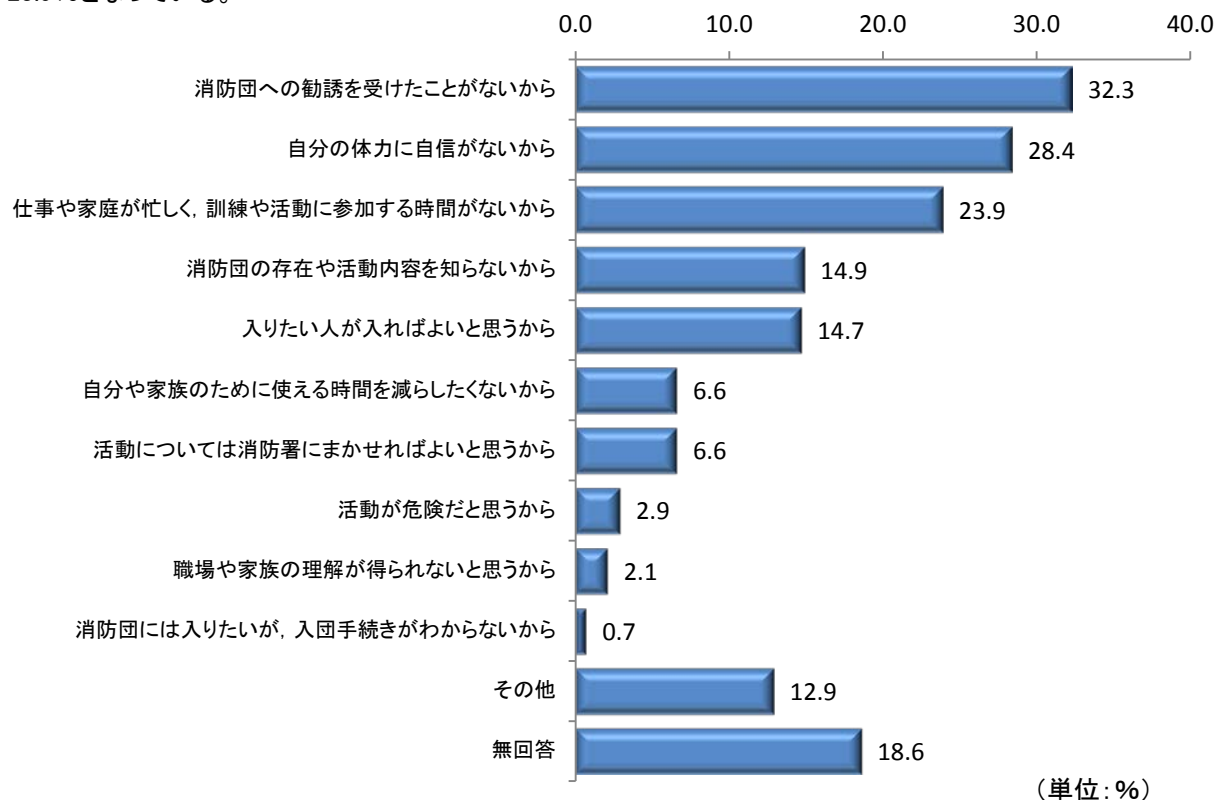
(3) 消防団に入団していない理由

問 33 あなたが消防団に入団されていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(M. A.)

「消防団への勧誘を受けたことがない」が3割を超える

消防団に入団していない理由は、「消防団への勧誘を受けたことがない」と回答した割合が 32.3%と最も高く、次いで「自分の体力に自信がない」が 28.4%、「仕事や家庭が忙しく、訓練や活動に参加する時間がない」が 23.9%となっている。



<属性による比較>

【生活圏別】

「消防団の存在や活動内容を知らない」「消防団への勧誘を受けたことがない」「仕事や家庭が忙しく、訓練や活動に参加する時間がない」「自分の体力に自信がない」と回答した割合は、広島生活圏が最も高く、次いで備後生活圏が続く。広島生活圏の回答割合は備北生活圏と比べて10ポイント以上高くなっている。

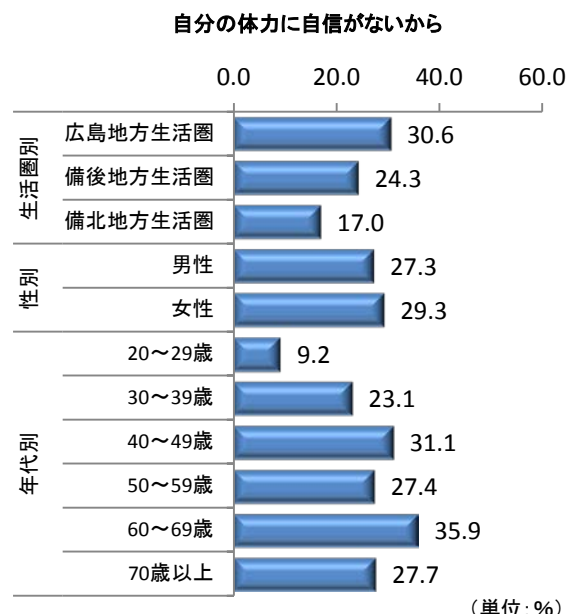
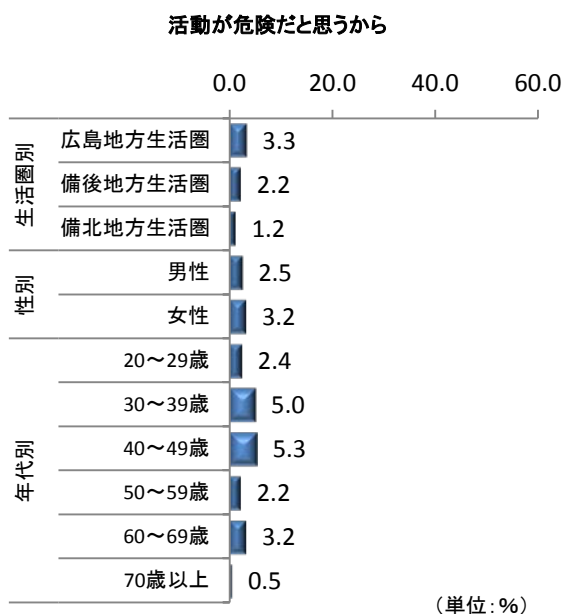
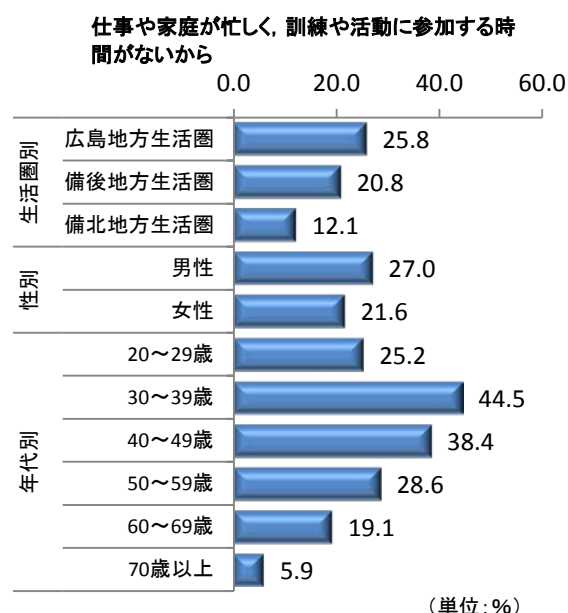
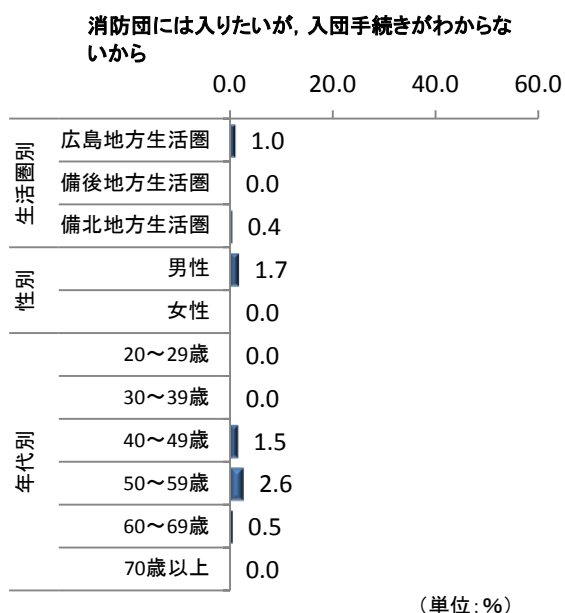
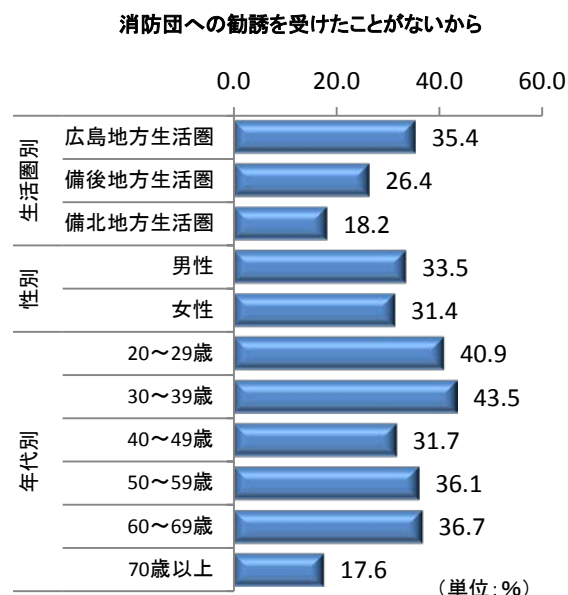
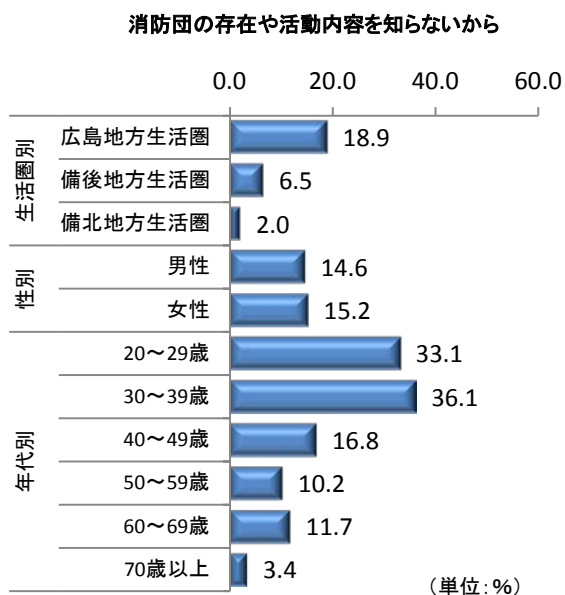
【性別】

男性は「仕事や家庭が忙しく、訓練や活動に参加する時間がない」「自分や家族のために使える時間を減らしたくない」と回答した割合が、女性と比べて5ポイント以上高くなっている。

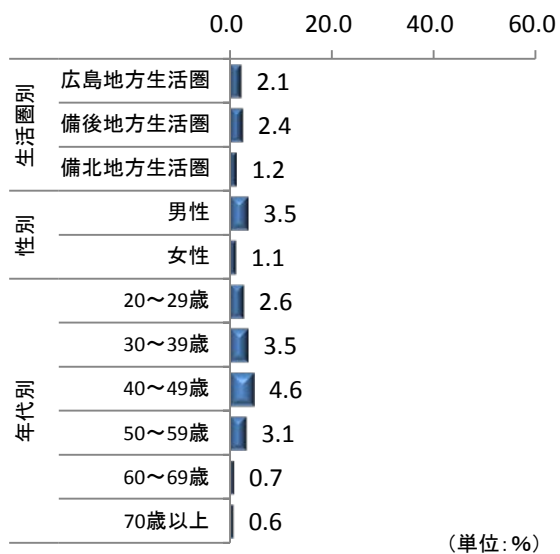
【年代別】

「消防団の存在や活動内容を知らない」「消防団への勧誘を受けたことがない」と回答した割合は、20～30歳代で3割を超え、他の年代と比べて高くなっている。「仕事や家庭が忙しく、訓練や活動に参加する時間がない」と回答した割合は30～40歳代が他の年代と比べて高い。

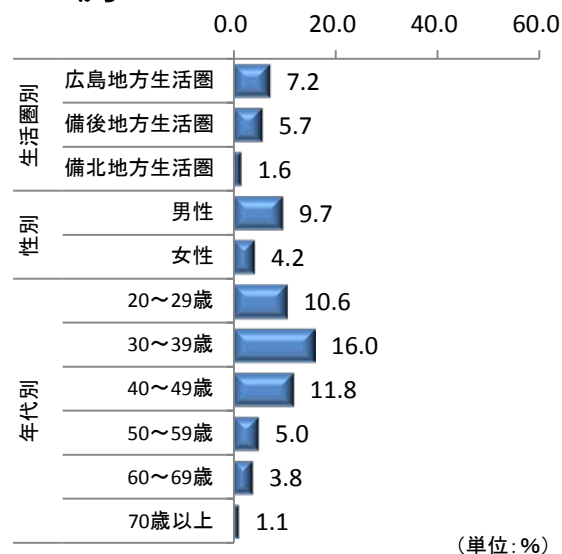
消防団に入団していない理由(生活圏, 性, 年代別)



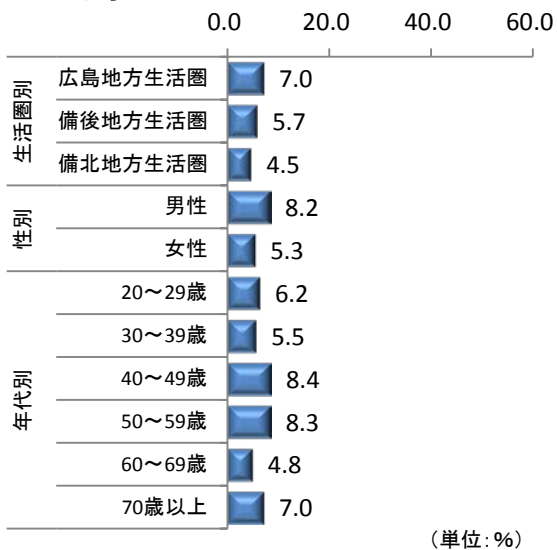
職場や家族の理解が得られないと思うから



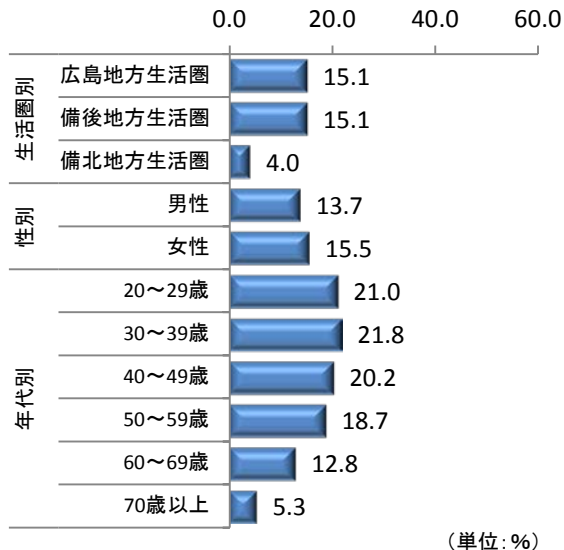
自分や家族のために使える時間を減らしたくないから



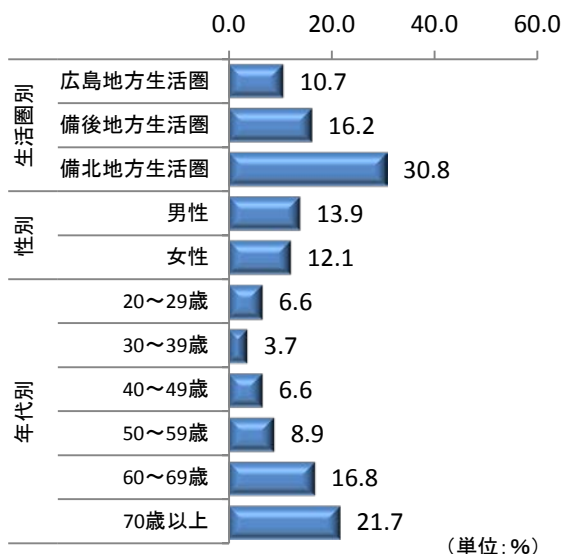
活動については消防署にまかせればよいと思うから



入りたい人が入ればよいと思うから



その他

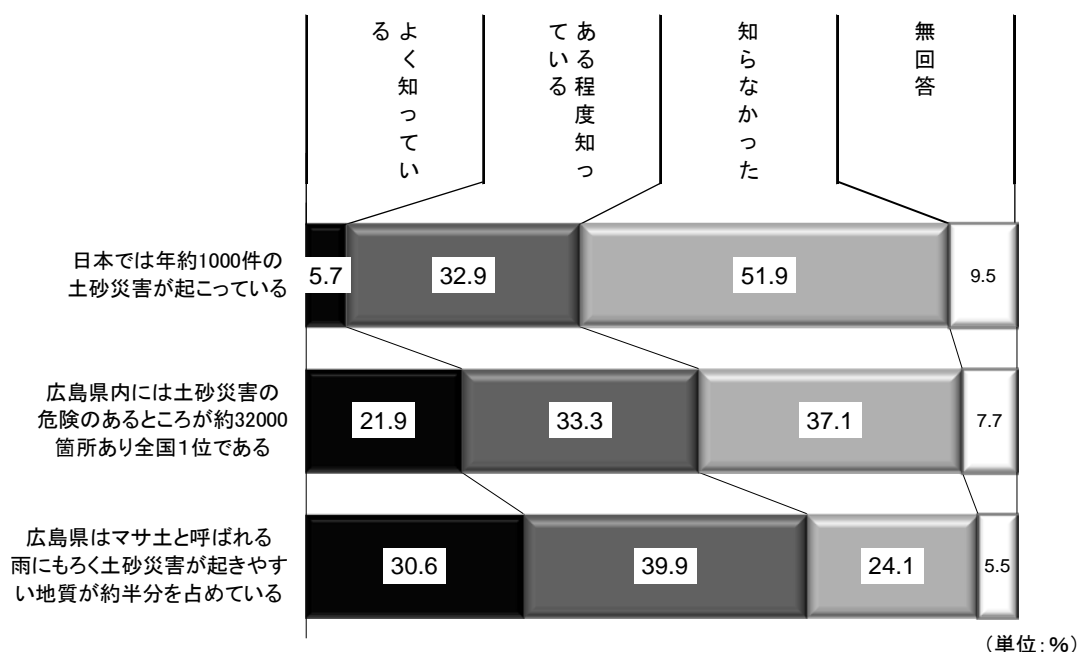


(4) 土砂災害の現状

問 34 あなたは、次の土砂災害の現状についてどれくらい知っていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

「マサ土」の認知度は7割を占める。

土砂災害の現状について、「認知度」(「よく知っている」「ある程度知っている」)の割合は、「日本では年約 1000 件の土砂災害が起こっている」は 38.6%、「広島県内には土砂災害の危険のあるところが約 32000 箇所あり全国 1 位である」は 55.2%、「広島県はマサ土と呼ばれる雨にもろく土砂災害が起きやすい地質が約半分を占めている」は 70.5%を占める。



<属性による比較>

【生活圏別】

生活圏別に認知度の割合をみると、「日本では年約 1000 件の土砂災害が起こっている」は備北生活圏が最も高く 45.4%、広島生活圏の 37.7%と比べて 7.7 ポイント高くなっている。「広島県はマサ土と呼ばれる雨にもろく土砂災害が起きやすい地質が約半分を占めている」は、広島生活圏と備北生活圏で7割を超える一方で、備後生活圏は 59.6%と 10 ポイント以上低くなっている。

【性別】

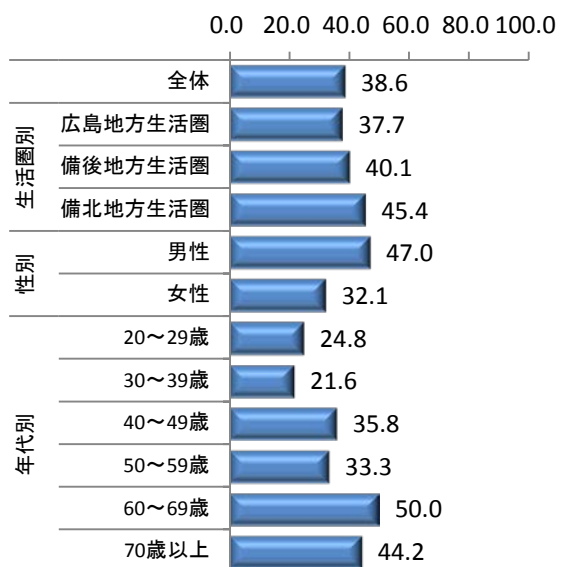
性別に認知度の割合をみると、「日本では年約 1000 件の土砂災害が起こっている」は男性が 47.0%と、女性の 32.1%と比べて 14.9 ポイント高くなっている。

【年代別】

年代別に認知度の割合をみると、「日本では年約 1000 件の土砂災害が起こっている」は 60 歳代で 50.0%と半数を占め、他の年代と比べて高くなっている。「広島県内には土砂災害の危険のあるところが約 32000 箇所あり全国 1 位である」は、30~60 歳代で半数以上を占め、20 歳代、70 歳代と比べて8ポイント以上高い。「広島県はマサ土と呼ばれる雨にもろく土砂災害が起きやすい地質が約半分を占めている」は 30~60 歳代で7割以上を占める。

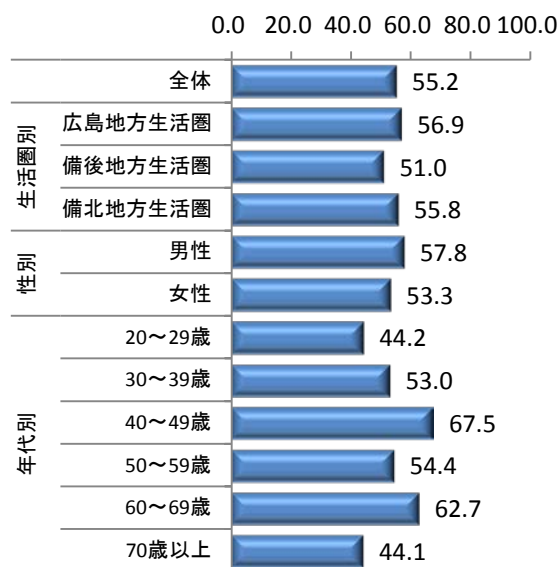
土砂災害の現状 認知度(「よく知っている」「ある程度知っている」)(生活圏, 性, 年代別)

日本では年約1000件の土砂災害が起こっている



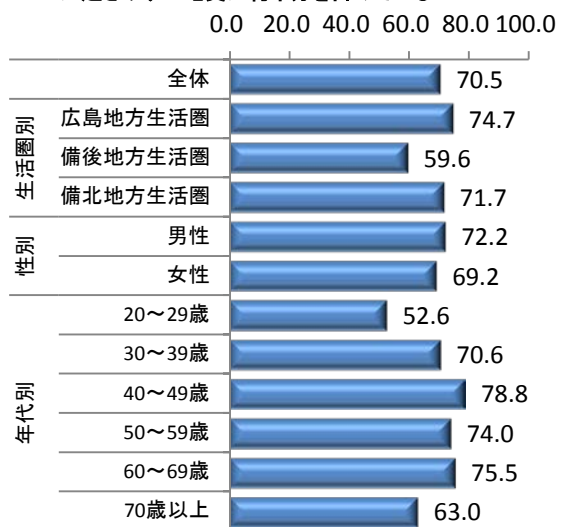
(単位: %)

広島県内には土砂災害の危険のあるところが約32000箇所あり全国1位である



(単位: %)

広島県はマサ土と呼ばれる雨にもろく土砂災害が起きやすい地質が約半分を占めている



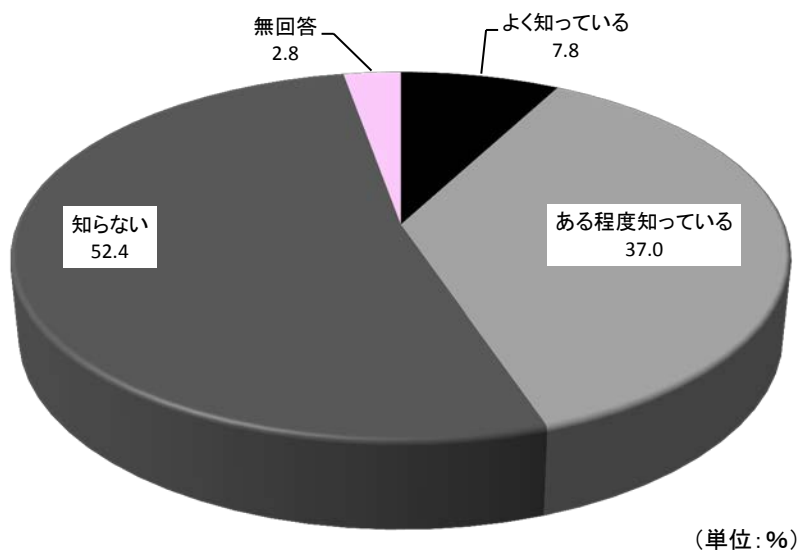
(単位: %)

(5) 自宅近くの『土砂災害危険箇所』への認識

問 35 あなたは、ご自宅近くの『土砂災害危険箇所』がどこにあるかご存知ですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

認知度の割合は半数弱

「よく知っている」が 7.8%、「ある程度知っている」が 37.0%であり、合計した認知度の割合は 44.8%である。

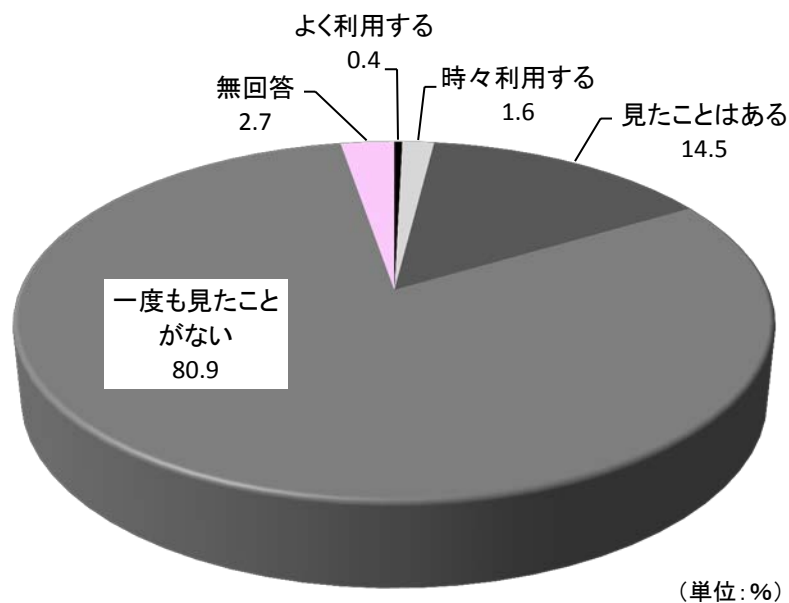


(6) 『土砂災害ポータルひろしま』の閲覧有無

問 36 あなたは、広島県が土砂災害に役立つ情報を公開しているホームページ『土砂災害ポータルひろしま』をご覧になったことはありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

閲覧率は2割に満たない

「よく利用する」と回答した割合は0.4%、「時々利用する」は1.6%であり、合計した利用率は2.0%と低い。「見たことはある」(14.5%)を併せた閲覧率は16.5%となっている。



<属性による比較>

【生活圏別】

利用率(「よく利用する」「時々利用する」)は、3生活圏いずれも5%未満と低い。「見たことはある」を含めた閲覧率は備北生活圏が19.4%で最も高く、広島生活圏が18.6%、備後生活圏が10.8%の順となっている。

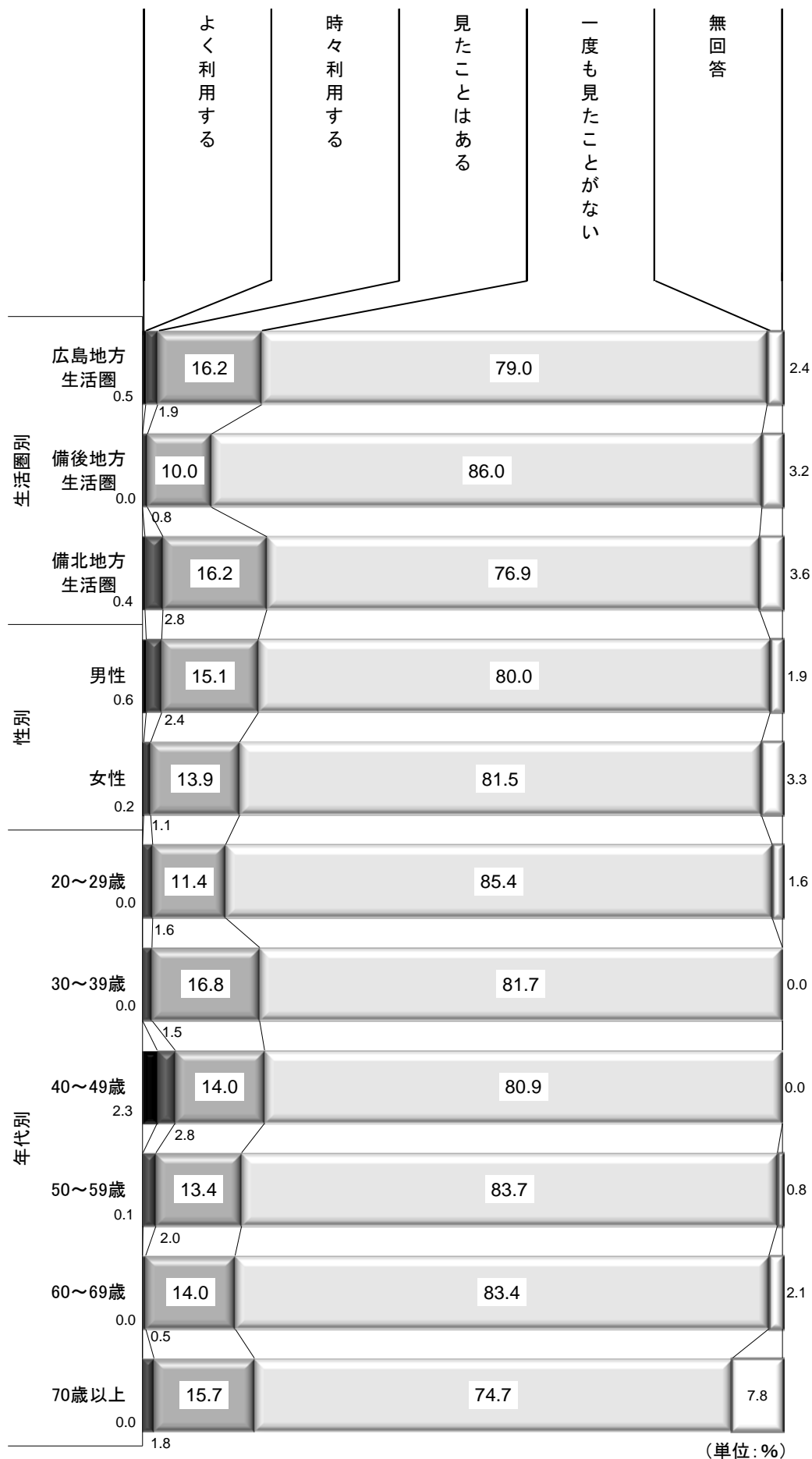
【性別】

男女ともに「一度も見たことがない」と回答した割合が8割を超え、差が見られない。

【年代別】

いずれの年代も閲覧率は2割を下回っている。

『土砂災害ポータルひろしま』の閲覧有無(生活圏, 性, 年代別)

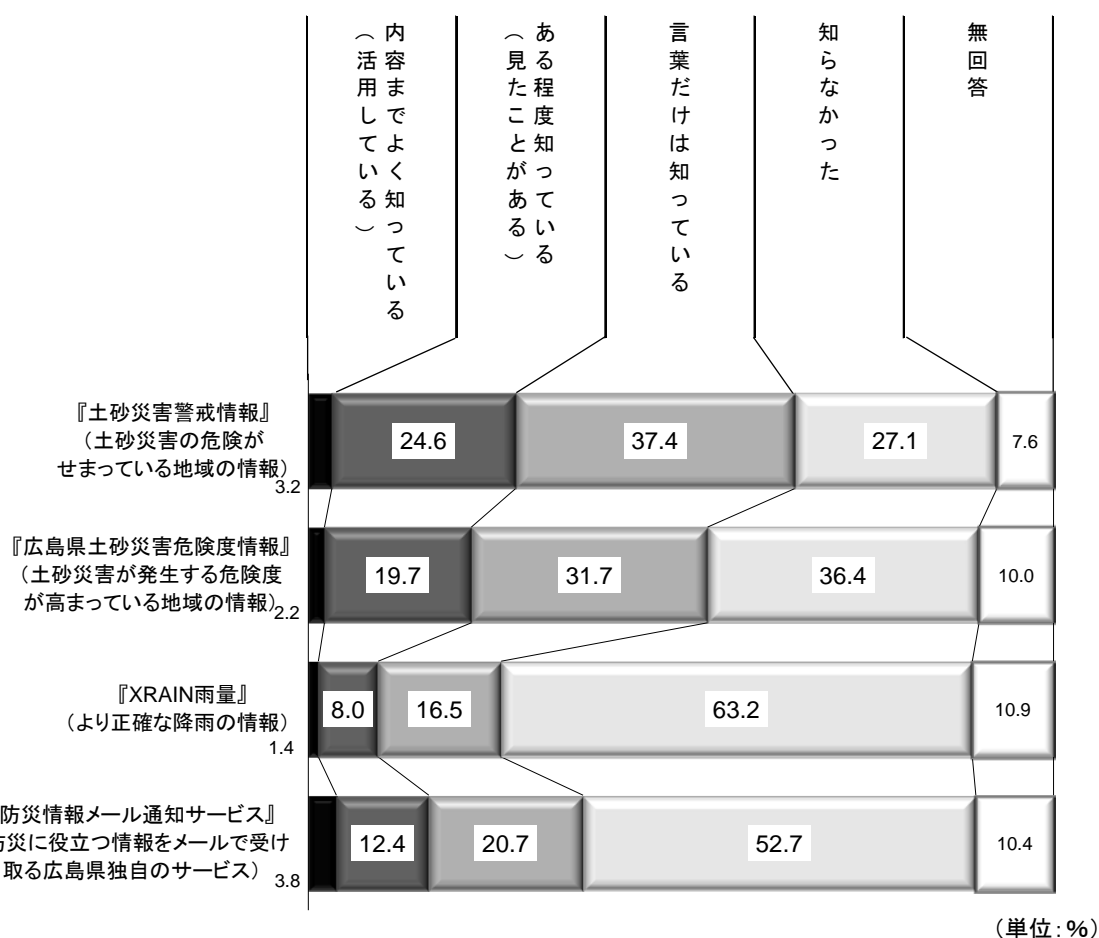


(7) 土砂災害に役立つ情報について

問 37 あなたは、次の土砂災害に役立つ情報についてどの程度ご存知ですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

『土砂災害警戒情報』の認知度の割合は3割以下

いずれの情報も「内容までよく知っている」と答えた割合は5%を下回っている。「ある程度知っている」を含めた「認知度」は『土砂災害警戒情報』が27.8%と最も高く、『XRAIN雨量』は9.4%と最も低い。「言葉だけは知っている」と回答した割合は、『土砂災害警戒情報』が37.4%、『広島県土砂災害危険度情報』が31.7%と高い。



<属性による比較>

【生活圏別】

各情報について、備後生活圏の「認知度」の割合が他の2生活圏と比べて低い。

【性別】

「認知度」の割合に差は見られない。

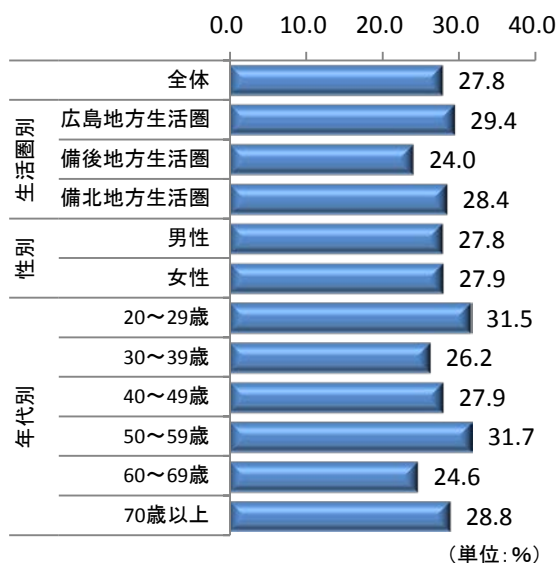
【年代別】

「土砂災害警戒情報」は、20歳代と50歳代で「認知度」が3割を占める。

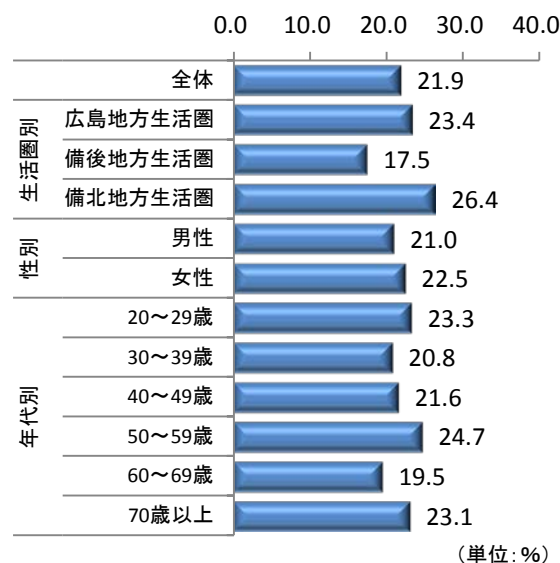
土砂災害に役立つ情報について

認知度(「内容までよく知っている」「ある程度知っている」)(生活圏, 性, 年代別)

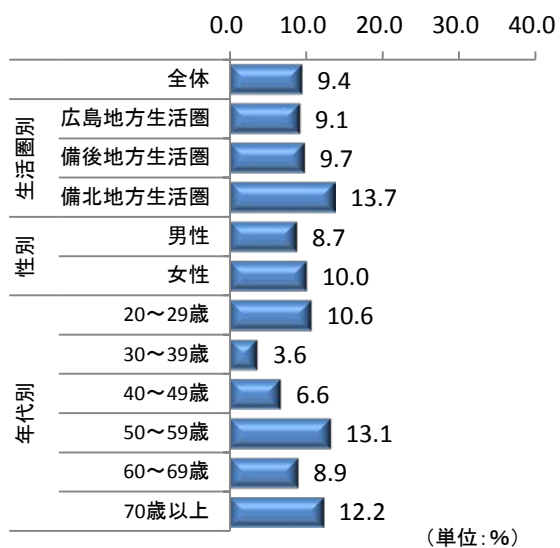
『土砂災害警戒情報』



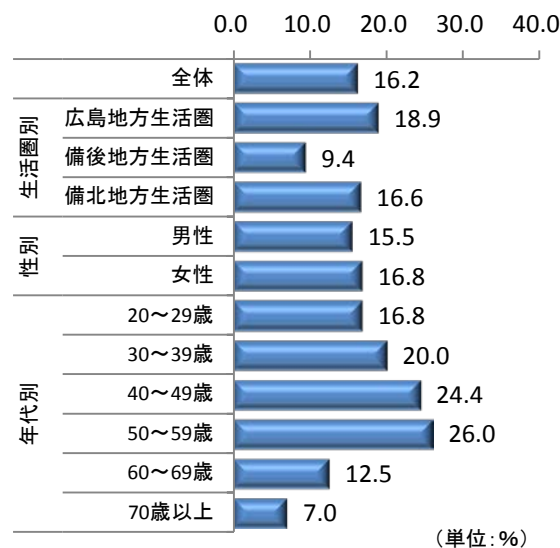
『広島県土砂災害危険度情報』



『XRAIN雨量』



『防災情報メール通知サービス』

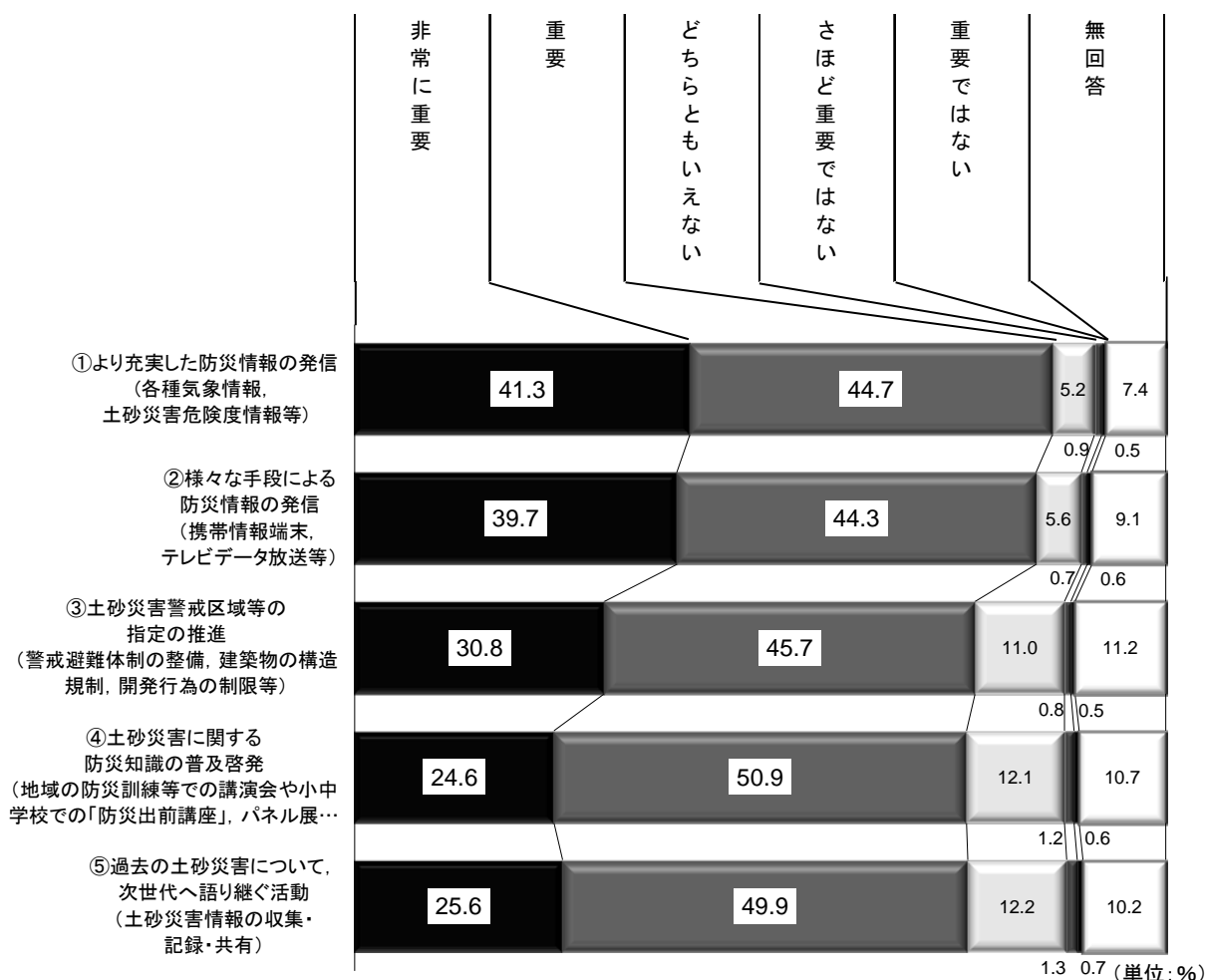


(8) 今後の土砂災害に対する地域の防災力向上のために重要な施策

問 38 あなたは、今後、土砂災害に対する地域の防災力向上のためには、どのような施策がより重要であるとお考えですか。あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

いずれの施策も「重要」だと考える割合は7割以上を占める

各施策の「重要度」(「非常に重要」「重要」)は、「①より充実した防災情報の発信」が 86.0%、「②様々な手段による防災情報の発信」が 84.0%、「③土砂災害警戒区域等の指定の推進」が 76.5%、「④土砂災害に関する防災知識の普及啓発」が 75.5%、「⑤過去の土砂災害について、次世代へ語り継ぐ活動」が 75.5%となっている。



<属性による比較>

【生活圏別】

生活圏別に大きな差はなく、全ての施策について、3生活圏ともに「重要度」は7割以上を占める。

【性別】

男女別に大きな差はなく、各施策の「重要度」は7割以上を占める。

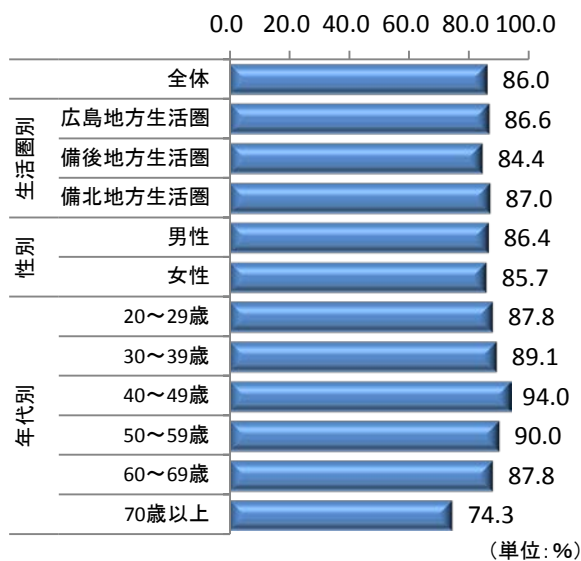
【年代別】

「①より充実した防災情報の発信」と「②様々な手段による防災情報の発信」は 20～60 歳代の「重要度」が8割以上を占める。各施策のいずれも 70 歳以上の「重要度」は、他の年代と比べて 10 ポイント以上低い。

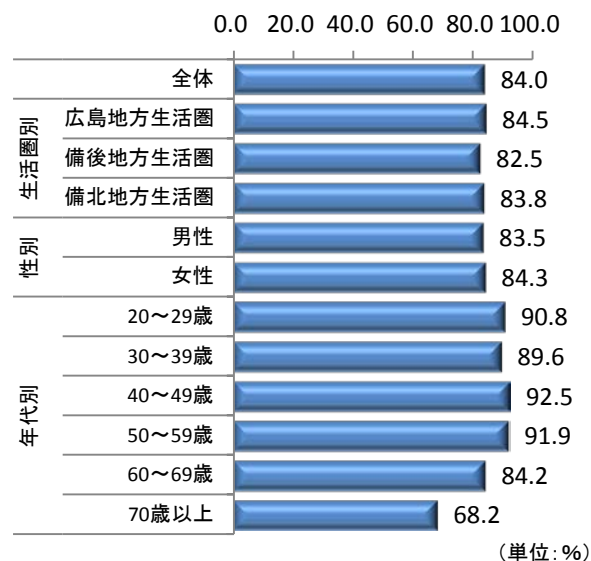
今後の土砂災害に対する地域の防災力向上のために重要な施策

重要度(「非常に重要」「重要」)(生活圏, 性, 年代別)

①より充実した防災情報の発信



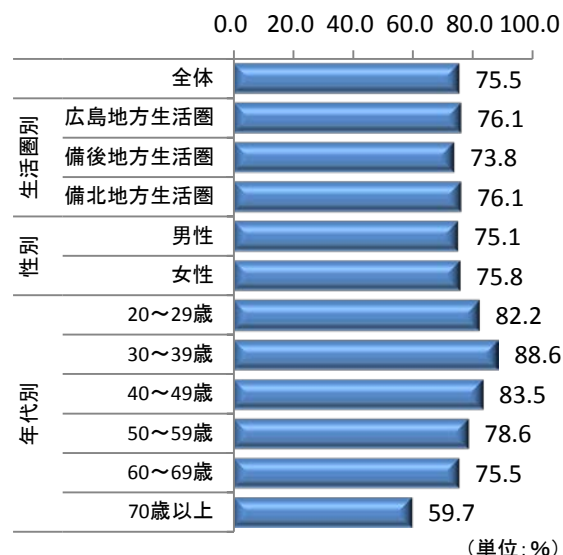
②様々な手段による防災情報の発信



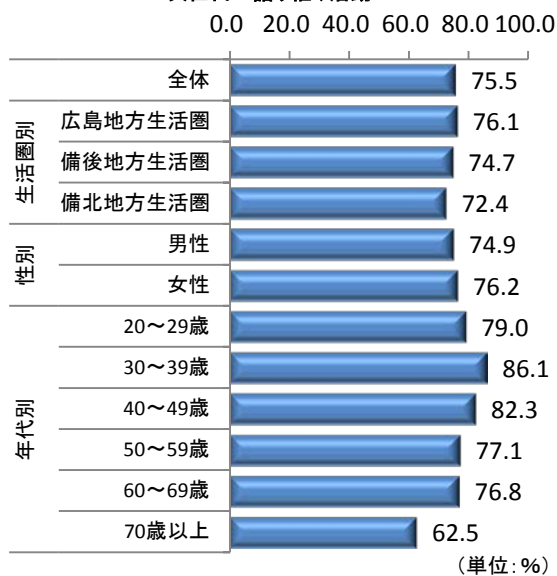
③土砂災害警戒区域等の指定の推進



④土砂災害に関する防災知識の普及啓発



⑤過去の土砂災害について、次世代へ語り継ぐ活動

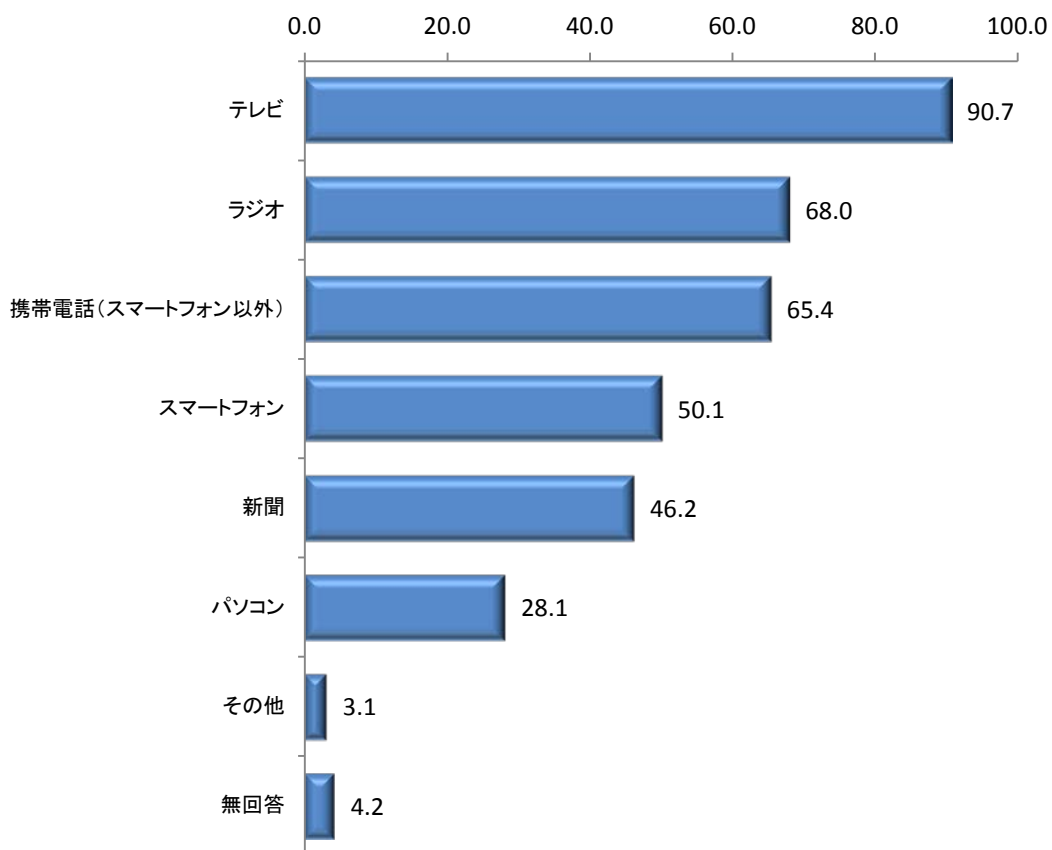


(9) 防災情報の提供先として重要だと思う媒体

問 39 防災情報の提供先として、重要だと思う媒体をすべて選んでください。(M. A.)

「テレビ」が9割を超える

「テレビ」と回答した割合が 90.7%と最も高く、次いで「ラジオ」が 68.0%、「携帯電話(スマートフォン以外)」が 65.4%となっている。



(単位: %)

<属性による比較>

【生活圏別】

「スマートフォン」「新聞」は広島生活圏が他の2生活圏と比べて5ポイント以上高い。

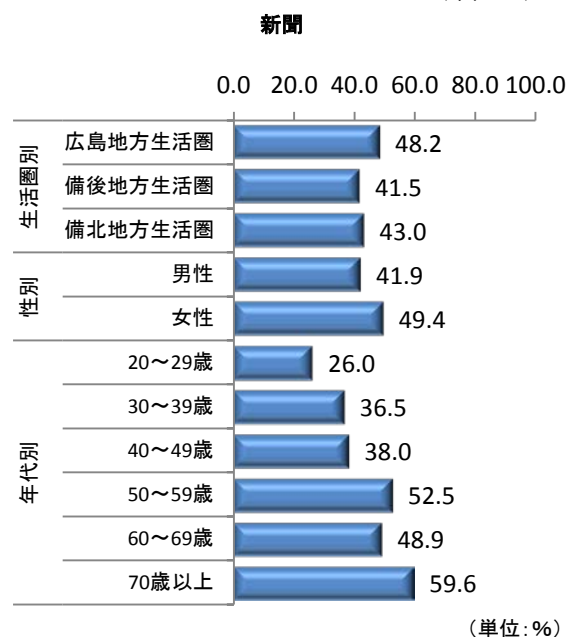
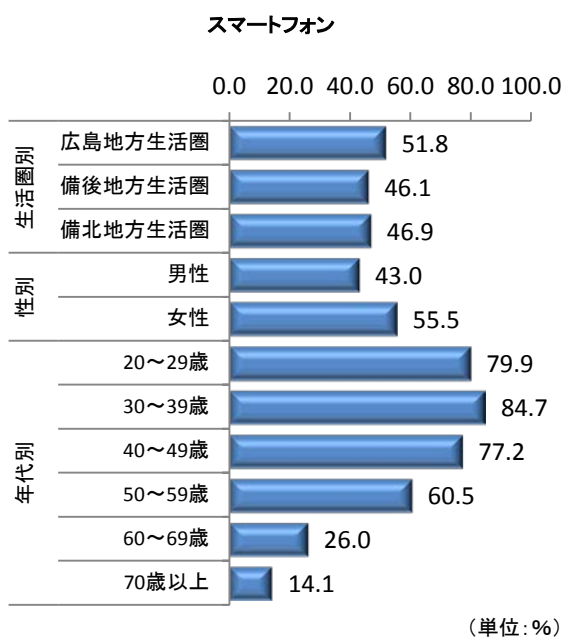
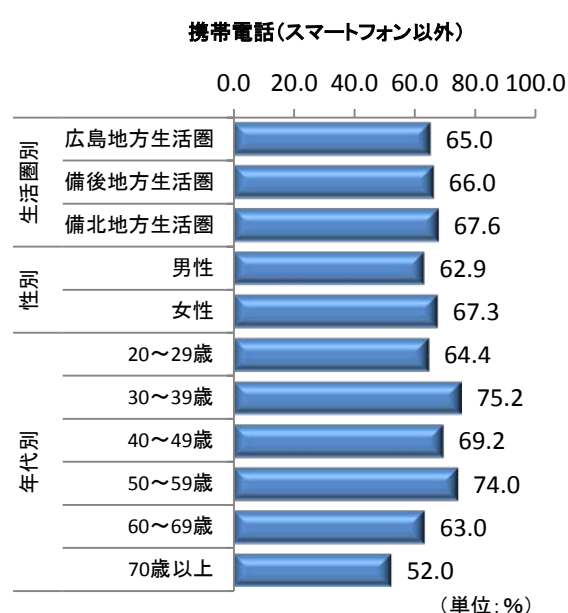
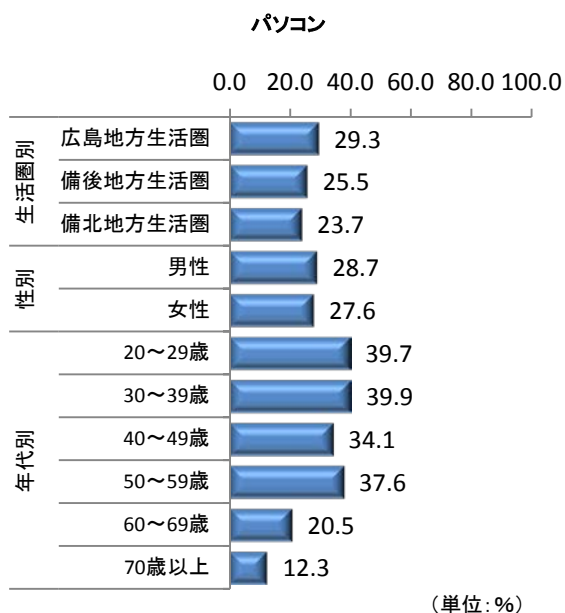
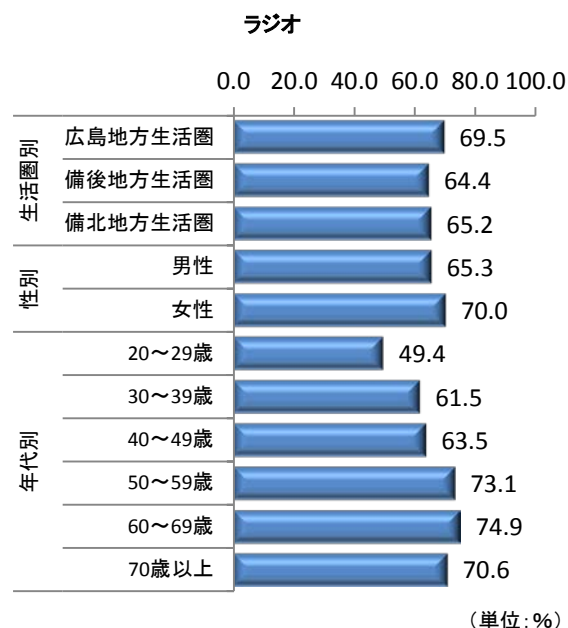
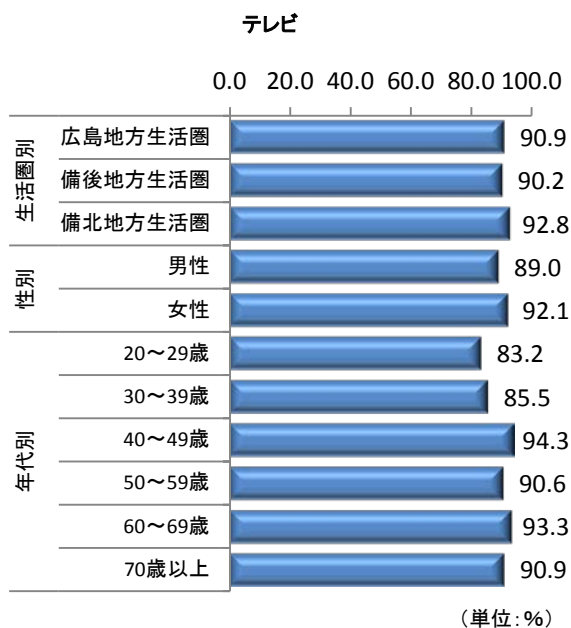
【性別】

「スマートフォン」と答えた割合は女性が 55.5%と、男性の 43.0%と比べて 12.5 ポイント高い。「新聞」は女性が 49.4%と、男性の 41.9%と比べて 7.5 ポイント高くなっている。

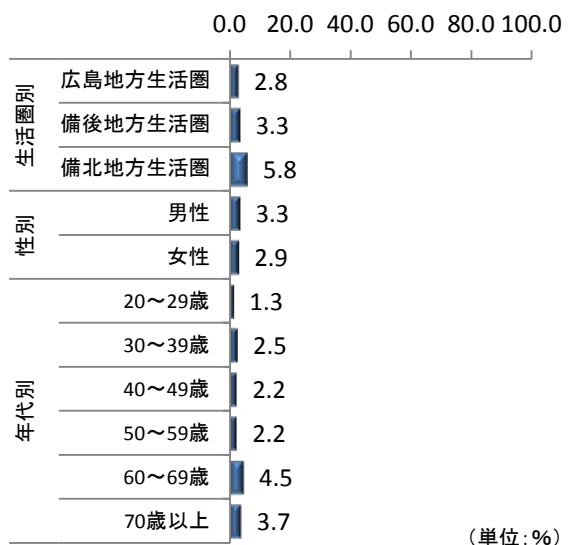
【年代別】

「ラジオ」は 50 歳代以上で7割を超える一方で、20 歳代は 49.4%と半数に満たない。「スマートフォン」は 20~40 歳代で7割以上を占める一方で、70 歳以上は 14.1%と低い。

防災情報の提供先として重要だと思う媒体(生活圏, 性, 年代別)



その他



(単位:%)